

【 復活のトロパリ 第1調 】

きゆ 救、うせ 世、え 主、いしゆよ、イウ デ ヤ の ひ と は か を 人 墓、
 ふ 封、うじ て、へい 兵、そ つ な ん ぢ の い さ ぎ よ き み を 卒 爾 潔 軀、
 ま も る と き、なんぢ は み っ か め に ふ く か つ 守 時 爾 三 日 目 復 活、
 し て、せ か い に い の ち を た ま え り。 世 界 生 命 賜、
 ゆ え に て ん ぐ ん は なん ぢ い の ち を ほ ど こ す の 故 天 軍 爾 生 命 施、
 しゆ に よ べ り、ハリス ト ス よ、こ う え い は 主 呼 光 榮、
 なん ぢ の ふ く か つ に き し、こ お え い は なん ぢ 爾 復 活 歸 光 榮 爾、
 の く に に き す、ひ と り ひ と を い つ く し む 國 歸 獨 人 慈、
 しゆ よ、こ う え い は なん ぢ の お も ん ぱ か り に 主 光 榮 爾 お 慮、
 き す。 歸。

【 日本の巫使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

し と と ひ と し く ど う ざ な る も の、ちゆう 使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
 實 神智 役者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光

しよおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教聖

よ、なんちのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及

ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生 命 賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこおとせいしんにき
 光 榮 父 子 お と 聖 神 歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
 成 聖 者 亜使徒聖 我

くになんちをたびびとおよびいほうじんとうけ
 國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの
 爾 初 我 國 於 己
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
 外 來 者 知
 ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて
 光 暖 流 爾 敵
 きをぞくしんのことなあし、かれらにか
 屬 神 子 爲 あ し、 彼 等 神
 みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
 恩 寵 與 教 會 建
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり
 今 此 教 會 爲 祈
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 あ え、 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 復活のコンダク 第1調 】

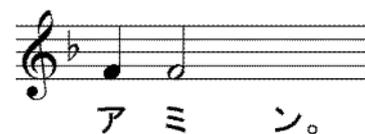
しゅさいよ、なんぢはかみなるによりてこう
 主 宰 爾 神 因 光
 えいのうちに はかよりふくかつし、せせ
 榮 中 墓 復 活 世



司祭) (黙誦： ^{せい} 聖なる神、 ^{かみ} 聖者の中に ^{せいじゃ} 息い、 ^{うち} セラフィムより ^{いこ} 聖三の聲を以て歌頌せられ、
^{さんえい} ヘルヴィムより ^{ことごと} 讚榮せられ、 ^{てんぐん} 悉くの天軍より ^{ふくはい} 伏拜せられ、 ^{ばんぶつ} 萬物を ^む 無より ^{ゆう} 有と
^{ひと} なし、 ^{なんぢ} 人を ^{ぞう} 爾の ^{しょう} 像と ^よ 肖とに依りて造り、 ^{つく} 爾が ^{なんぢ} 諸の ^{もろもろ} 賜を以て之を飾り、
^{ねが} 願う者に ^{もの} 智慧と ^{ちえ} 明悟とを ^{めいご} 與え、 ^{あた} 罪を行 ^{つみ} う者を ^{おこな} 棄てずして、 ^{もの} 其 ^す 救の爲に ^{そのすくい} 痛悔
^た を立て、 ^{われらいや} 我等卑しくして ^{ふとう} 不當なる ^{なんぢ} 爾の ^{しょぼく} 諸僕を、 ^こ 此の時に ^{とき} 於ても、 ^{おい} 爾が ^{なんぢ} 聖な
^{さいだん} る祭壇の ^{こうえい} 光榮の前に ^{まえ} 立ち、 ^{なんぢ} 爾に ^{とうぜん} 當然の ^{ふくはいさんえい} 伏拜讚榮を ^{たてまつ} 奉るに ^た 堪うる者と
^{しゅさい} なしし主宰よ、 ^{なんぢみづか} 爾親ら ^{われら} 我等 ^{ざいにん} 罪人の ^{くち} 口よりも ^{せいさん} 聖三の ^{うた} 歌を受け、 ^{なんぢ} 爾の ^{じんじ} 仁慈を
^{もつ} 以て我等に ^{われら} 臨み、 ^{のぞ} 我等に ^{われら} 凡そ ^{およ} 自由と ^{じゆう} 自由ならざる ^{じゆう} 罪を ^{つみ} 赦し、 ^{ゆる} 我が ^わ 靈と ^{たましい} 體と
^{せい} を ^{われら} 聖にし、 ^{しょうがいぜんこう} 我等に ^{もつ} 生涯善功を以て ^{なんぢ} 爾に ^{つと} 務むるを ^え 得せしめ ^{たま} 給え、 ^{せい} 聖なる ^{しょう} 生
^{しんぢょ} 神女と ^{こせい} 古世より ^{なんぢ} 爾の ^{よろこび} 喜を ^な 爲しし ^{しよせいじん} 諸聖人との ^{きとう} 祈禱に ^よ 依りてなり、)

司祭) 蓋 ^{けだしわ} 我が ^{かみ} 神よ、 ^{なんぢ} 爾は ^{せい} 聖なり、 ^{われら} 我等 ^{こうえい} 光榮を ^{なんぢちち} 爾父と ^こ 子と ^{せいしん} 聖神に ^{けん} 献ず、 ^{いま} 今も ^{いつ} 何時も ^{よよ} 世世

に、



【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょう せい の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
常 生 者 我 等 憐

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
聖 神 聖 勇 毅 聖

な る じょう せい の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
常 生 者 我 等 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、
聖 神 聖 勇 毅

せ い な る じょう せい の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
歸 今 何 時 世 世

せ い な る じょう せい の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
聖 常 生 者 我 等 憐

れ め よ 。 せいなるかみ、せいなるゆう
 聖 神 聖 勇
 き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
 毅 聖 常 生 者 我 等
 あわれめよ。
 憐

司祭) (黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
 の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

【 プロキメン 提綱 主日第1調 】

司祭) 慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給え、

しゅよ、われらなんぢをたのむがごとく、
 主 我 等 爾 頼 如
 なんぢのあわれみをわれらにたあれえたあま
 爾 憐 我 等 垂 給
 え。

誦經) 義人よ、主の爲に喜び、讚榮するは義者に適う、

しゅよ、われらなんぢをたのむがごとく、
 主 我 等 爾 頼 如

なんぢのあわれみをわれらにたあれえたあま
爾 憐 我 等 垂 給
え。

誦經) ^{しゅ われらなんぢ たの ごと} 主よ、我等爾を頼むが如く、

なんぢのあわれみをわれらにたあれえたあま
爾 憐 我 等 垂 給
え。

【 アポστόロス 使徒經 81 半端 ロマ書2章10節~16節 】

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) ^{せいしと じん たつ しょ よみ} 聖使徒パウエルがエウレイ人に達する書の讀、

司祭) ^{つつし き} 謹みて聽くべし、

誦經) ^{けいてい こうえい そんき へいあん およ ぜん な ひと ま じん つぎ じん} 兄弟よ、光榮と尊貴と平安とは、凡そ善を爲す人、先づイウデヤ人、次にエルリン人
^{いた けだしかみ へんし およ りつぼう つみ おか もの りつぼう} に至らん、蓋神には偏視することなし。凡そ律法なくして罪を犯しし者は、律法なく
^{ほろ りつぼう つみ おか もの りつぼう よ しんばん けだしりつぼう き} して滅び、律法ありて罪を犯しし者は、律法に由りて審判せられん、(蓋律法を聞
^{もの かみ まえ ぎ あら すなわちりつぼう おこな もの けだしりつぼう たも} く者は神の前に義なるに非ず、乃律法を行う者は義とせられん、蓋律法を有た
^{いほうじんら せい したが りつぼう こと おこな とき りつぼう たも いえども みづか おのれ} ざる異邦人等、性に率いて律法の事を行う時は、律法を有たずと雖、自ら己
^{りつぼう かれら りつぼう わざ そのこころ する あらわ こ かれら りょうしん} の律法たるなり、彼等は律法の工の其心に銘されたるを彰す、此れ彼等の良心、
^{および たがい せ あるい ほ おもい しょう ところ すなわちかみ} 及び互に貶め、或は褒むる思慮の證する所なり、) 即神がイイススハリストス
^{もつ ひと みつじ しんばん ひ おい わ ふくいん ところ ごと} を以て人の密事を審判する日に於てす、我が福音する所の如し。

(比較用 口語訳) 善を行うすべての人には、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、光榮とほまれと平安とが与えられる。なぜなら、神には、かたより見ることがないからである。そのわけは、律法なしに罪を犯した者は、また律法なしに滅び、律法のもとで罪を犯した者は、律法によってさばかれる。なぜな

ら、律法を聞く者が、神の前に義なるものではなく、律法を行う者が、義とされるからである。すなわち、律法を持たない異邦人が、自然のままで、律法の命じる事を行うなら、たとえ律法を持たなくても、彼らにとっては自分自身が律法なのである。彼らは律法の要求がその心にしるされていることを現し、そのことを彼らの良心も共にあかしをして、その判断が互にあるいは訴え、あるいは弁明し合うのである。そして、これらのことは、わたしの福音によれば、神がキリスト・イエスによって人々の隠れた事がらをさばかれるその日に、明らかにされるであろう。

【 アリルイヤ 主日第1調 】

司祭) ^{なんぢ へいあん} 爾に平安、

誦經) ^{なんぢ しん} 爾の神にも、

司祭) ^{えいち} 睿智、

誦經) アリルイヤ、

Arieleia, Arieleia,
Arieleia.

誦經) ^{ねが わ ため あだ かえ われ しょみん したが かみ さんしょう} 願わくは我が爲に仇を復し、我に諸民を従わしむる神は讃頌せられん、

Arieleia, Arieleia,
Arieleia.

誦經) ^{おおい すくい おう ほどこ あわれみ なんぢ あぶら もの およ そのすえ よよ} 大なる救を王に施し、憐を爾の膏つけられし者ダヴィド及び其裔に世々に

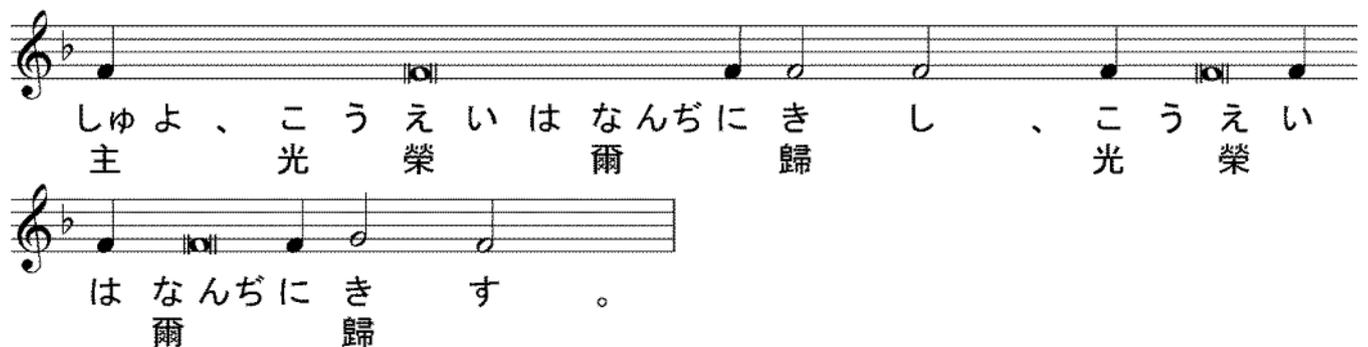
^{た もの われなんぢ な うた} 垂るる者よ、我爾の名に歌わん、

Arieleia, Arieleia,

めぐ そのしょかいどう おい おしえ つた てんこく ふくいん の みんかん もるもろ やまい
ヤを巡りて、其諸會堂に於て教を傳え、天國の福音を宣べ、民間の諸の病

もるもろ わづらい いや
諸の疾を醫せり。

(比較用 口語訳) さて、イエスがガリラヤの海べを歩いておられると、ふたりの兄弟、すなわち、ペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレとが、海に網を打っているのをごらんになった。彼らは漁師であった。イエスは彼らに言われた、「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」。すると、彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った。そこから進んで行かれると、ほかのふたりの兄弟、すなわち、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネとが、父ゼベダイと一緒に、舟の中で網を繕っているのをごらんになった。そこで彼らをお招きになると、すぐ舟と父とをおいて、イエスに従って行った。イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸會堂で教え、御國の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮
はなんぢにきす。
爾 歸

※聖体礼儀③ へ